

# 松山のまちづくり視察

ブラジル南部クリチバ市職員ら

## 太陽光活用事例学ぶ

持続可能な都市づくりに取り組むブラジル・クリチバ市の行政関係者7人が7日、松山市を訪れ、温暖化対策やまちづくり政策などについて学んだ。

同国南部パラナ州の州都・クリチバ市の「持続可能な都市開発能力強化プロジェクト」に技術協力する国際協力機構（JICA）による国内視察の一環。

松山市環境モデル都市推進課の担当者は、温暖な気候や日照時間の長さを生かして、太陽光エネルギーの活用を核に脱温暖化と産業創出を目指す「松山サンシャ



インプロジェクトを紹介。太陽光発電の導入支援や、収益を新設備導入などに充てるグリーン電力証書事業などの事例を挙げ「これらの取り組みで太陽光発電設備の世帯普及率が中核市（62市）トップクラスになった」と説明した。

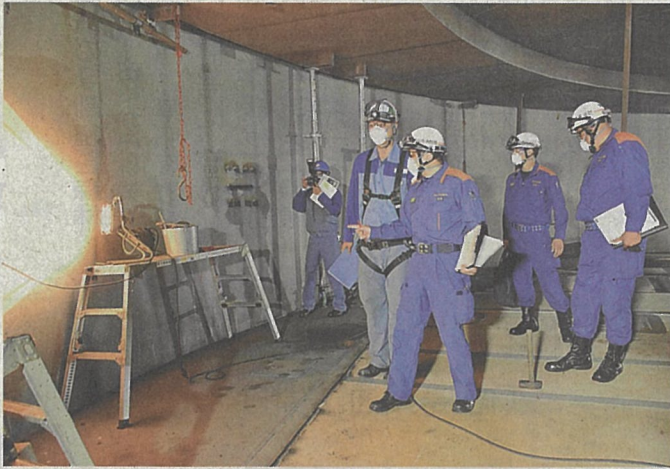
人口減少や交通手段確保などの課題を抱える中島の「スマートアイランド事業」では、太陽光発電を利用し

松山市職員から温暖化対策の取り組みなどについて説明を受けるクリチバ市の関係者

7日午前、松山市役所

# 石油工場立ち入り研修

## 松山中予4消防合同で初



大型タンク内の火災予防体制を確認する消防職員ら。7日午後、松山市大可賀3丁目

石油コンビナートなど危予地区4消防本部による実

松山工場であった。消防職員14人が燃料タンクを巡回し、資機材や消火設備の管理状況などの確認手順を学んだ。

事業所の減少や検査実務の一部簡素化などにより、危険物施設での検査が減少傾向にあることから松山市消防局、伊予消防等事務組合、東温市と久万高原町の各消防本部は3月、「松山圏域での火災予防業務研修に関する協定」を締結。7日は松山市消防局の立ち入り検査に合わせ、初の合同研修を実施した。

同工場では、鉄製の底板と屋根板の取り換え工事中の大型タンクで、松山市消

状況、消火設備について尋ね、異常の有無をチェック。溶解作業中に火災の恐れがないかも確認し、参加者らは検査のポイントや設備構造を学んでいた。

伊予消防等事務組合消防本部予防課の大西教人消防司令は「(施設の)大小にかかわらず運用開始前後に検査すると、その後は(立ち入る)機会が限られるのでいい勉強になった。検査時の指導や後輩職員の能力向上に役立てたい」と話した。松山市消防局予防課の中西則之課長は「今後連携して積極的に研修を行い、習得した新しい知識や技術を火災予防体制の強化

# 土砂災害警戒情報基準見直し

松山气象台と県きょう午後から

## 対象地域を整理

松山地方气象台と県は7日、土砂災害警戒情報の発表基準の見直しを県内の17市町で行うと発表した。情報判断の対象となる地域をこれまでの4789カ所から4495カ所に減らし、8日午後1時から適用する。

見直しは必要以上の情報発表を防ぐため、3年ぶりに実施。平坦で土砂災害が発生しない地域や、ほと

エリ部長は「松山市は長期にわたり再生可能エネルギーの取り組みをしている。市民の環境意識向上につながる試みは素晴らしい」と感心していた。

一行は8日、道後温泉や松山城などの観光施設を視察する。(菅亮輔)

んど人が活動していない場所などを考慮し、除外・追加を行った。

土砂災害警戒情報は土壌雨量指数と呼ばれる指標を基に、土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況になった際、県と气象台が発表している。气象台は見直しによって情報発表の精度が上がると、避難対象地域の確な設定を支援できるとしている。(増田有梨)

南予あすにかけ土砂災害に注意

松山气象台

南予では8日夜遅くから

て、松山地方气象台は7日、注意を呼びかけた。

北上する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定になる見込み。局地的に